

ニューロサイエンス学位プログラム(博士前期課程)

基礎科目(ニューロサイエンス学位プログラム:博士前期課程)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
OATF001	キャリアプランセミナー	2	1.0	1	通年	随時		綾部 早穂, 井出政行, 高橋 阿貴, 武井 陽介, 太田 深秀, 佐々木 哲也, 阿部 高志, 本城 咲季子, 大石 陽, 國松 淳, 加藤 克紀, 新井 哲明, 山田 一夫, 山中 克夫, 岡崎 慎治, 鶴田 文憲, 根本 清貴, 小金澤 禎史, Lazarus Michael, バスクアロット アキッレ, 高島 一郎, 坂口 昌徳, 松本 正幸, 増田 知之, 岩木 直, 武田 裕司, 山田 洋, 櫻井 武, 三 盃 亜美, 平野 有沙, Zhang Qi, 櫻井 勝康, 岩田 卓, 仲田 真理子, 長谷川 恵美	前期課程における科目履修の方法、必要単位、修了要件についての理解を促す。特に、修士論文研究資格審査、最終審査の内容と準備の方法について指導する。その上で、修士取得に向けて、課程修了後のキャリア形成プランも含めて、各自で計画を立案する。一部は学位プログラム合宿(1泊2日)として行う。	必修 対面

専門基礎科目(ニューロサイエンス学位プログラム:博士前期課程)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
OATF201	神経科学基礎論A	1	2.0	1	春A	応談		山田 一夫, 武井 陽介, 本城 咲季子, 鶴田 文憲, 松本 正幸, 増田 知之, 櫻井 勝康, 岩田 卓, 大石 陽	指定の教科書に沿って、分子・細胞神経科学領域の基礎的内容についての講義をオムニバス方式で行う。4回の講義が終了するごとに、その内容についての疑問点や、関連文献の学習などからなる、Midterm及びFinalのReview/Discussionを担当教員及びTFが主導して行い、分子・細胞神経科学の基礎知識の十分な習得を促す。	必修 対面
OATF202	神経科学基礎論B	1	2.0	1	春A	応談		山田 洋, 國松 淳, 綾部 早穂, 小金澤 禎史, Lazarus Michael, 平野 有沙, 櫻井 武, 長谷川 恵美	指定の教科書に沿って、システム神経科学領域の基礎的内容についての講義をオムニバス方式で行う。4回の講義が終了するごとに、その内容についての疑問点や、関連文献の学習などからなる、Midterm及びFinalのReview/Discussionを担当教員及びTFが主導して行い、システム神経科学の基礎知識の十分な習得を促す。	必修 対面
OATF203	神経科学基礎論C	1	2.0	1	春B	応談		阿部 高志, 高橋 阿貴, 佐々木 哲也, 加藤 克紀, 高島 一郎, 坂口 昌徳, 武田 裕司, 仲田 真理子	指定の教科書に沿って、行動・認知神経科学領域の基礎的内容についての講義をオムニバス方式で行う。4回の講義が終了するごとに、その内容についての疑問点や、関連文献の学習などからなる、Midterm及びFinalのReview/Discussionを担当教員及びTFが主導して行い、行動・認知神経科学の基礎知識の十分な習得を促す。	必修 対面
OATF204	神経科学基礎論D	1	2.0	1	春B	応談		太田 深秀, 井出政行, 新井 哲明, 山中 克夫, 岡崎 慎治, 根本 清貴, 岩木 直, 三 盃 亜美, 櫻井 勝康, バスクアロット アキッレ	指定の教科書に沿って、障害・臨床・支援神経科学の領域の基礎的内容についての講義をオムニバス方式で行う。4回の講義が終了するごとに、その内容についての疑問点や、関連文献の学習などからなる、Midterm及びFinalのReview/Discussionを担当教員及びTFが主導して行い、障害・臨床・支援の神経科学の基礎知識の十分な習得を促す。	必修 対面
OATF251	基礎科学英語1	2	2.0	1・2	通年	応談		松本 正幸, バスクアロット アキッレ	履修学生各自の研究内容に関する口頭発表と質疑応答などからなる基礎英語コミュニケーション演習で、英語を母語とする神経科学学位プログラムの研究指導教員が中心となって行う。「修士論文研究の英語プロポーザル及び修士論文英語アストラクト」を作成するに足る基礎科学英語力、論理的思考力、表現力の養成を目指す。	必修 対面

OATF252	基礎科学英語2	2	2.0	2	通年	応談		松本 正幸, バスクアロット アキッレ	基礎科学英語1の単位取得者を対象とした応用英語コミュニケーション演習。履修学生の各自の研究内容に加えて、関連する研究領域に関して、英語で的確に説明することを学ぶ。英語を母語とする神経科学学位プログラムの研究指導員が中心となっていく。「修士論文を英語で執筆」するに足る科学英語力、論理的思考力、表現力を養成する。	対面
---------	---------	---	-----	---	----	----	--	---------------------	---	----

専門科目 (ニューロサイエンス学位プログラム: 博士前期課程)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OATF401	神経科学実験・実習A	3	1.0	1	春0夏季休業中	応談		武井 陽介, 佐々木 哲也, 本城 咲季子, 大石 陽, 鶴田 文憲, Lazarus Michael, 坂口 昌徳, 増田 知之, 櫻井 勝康, 岩田 卓	分子・細胞神経科学領域が開講する1週間程度の研究室実験・実習。担当教員の研究室の研究ミーティングや実験への参加を通して、当該領域の基礎知識や研究手法などについて、実践的に学ぶ。各々の領域で1年ごとに異なる内容で開講し、原則として3年間でローテーションする。	選択必修 対面
OATF402	神経科学実験・実習B	3	1.0	1	春0夏季休業中	応談		國松 淳, 小金澤 禎史, 松本 正幸, 山田 洋, 櫻井 武, 平野 有沙, 長谷川 恵美	システム神経科学領域が開講する1週間程度の研究室実験・実習。担当教員の研究室の研究ミーティングや実験への参加を通して、当該領域の基礎知識や研究手法などについて、実践的に学ぶ。各々の領域で1年ごとに異なる内容で開講し、原則として3年間でローテーションする。	選択必修 対面
OATF403	神経科学実験・実習C	3	1.0	1	春0夏季休業中	応談		高橋 阿貴, 阿部 高志, 加藤 克紀, 綾部 早穂, 山田 一夫, 高島 一郎, 仲田 真理子, バスクアロット アキッレ	行動・認知神経科学領域が開講する1週間程度の研究室実験・実習。担当教員の研究室の研究ミーティングや実験への参加を通して、当該領域の基礎知識や研究手法などについて、実践的に学ぶ。各々の領域で1年ごとに異なる内容で開講し、原則として3年間でローテーションする。	選択必修 対面
OATF404	神経科学実験・実習D	3	1.0	1	春0夏季休業中	応談		井出 政行, 太田 深秀, 新井 哲明, 山中 克夫, 岡崎 慎治, 根本 清貴, 岩木 直, 武田 裕司, 三盃 亜美	障害・臨床・支援神経科学領域が開講する1週間程度の研究室実験・実習。担当教員の研究室の研究ミーティングや実験への参加を通して、当該領域の基礎知識や研究手法などについて、実践的に学ぶ。各々の領域で1年ごとに異なる内容で開講し、原則として3年間でローテーションする。	選択必修 対面
OATF451	英語ジャーナルクラブ1	2	2.0	1・2	通年	応談		山田 洋, バスクアロット アキッレ	分子・細胞、システム、行動・認知、障害・臨床・支援の神経科学の各領域の基礎的な英語論文を講読し、理解力、発表力、ディベート力を養う。後期課程学生が、プレゼン指導やディスカッションのファシリテーターの役割を担うTFとして参画する。	必修 対面
OATF452	英語ジャーナルクラブ2	2	2.0	2	通年	応談		山田 洋, バスクアロット アキッレ	英語ジャーナルクラブ1の単位取得者のみ受講可能。分子・細胞、システム、行動・認知、障害・臨床・支援の神経科学の各領域の先端的、応用的な英語論文を講読し、理解力、発表力、ディベート力を養う。後期課程学生が、プレゼン指導やディスカッションのファシリテーターの役割を担うTFとして参画する。	対面
OAS0402	神経科学先端セミナー1	1	1.0	1・2	通年	応談		高橋 阿貴, 國松 淳, 山田 洋	遺伝子、分子、細胞、組織、生理、システム、数理、行動、認知、応用、支援など、ニューロサイエンスの各領域の先端的研究について、担当教員が毎回ゲストとして招く研究者によるセミナー講演を通して学ぶ。最新の研究手法や理論についての知識を深めるとともに、講師とのインフォーマルディスカッションを通して、生命科学、行動科学、情報科学、社会科学を架橋するニューロサイエンスの醍醐味、面白さを学び、ヒトのこころの理解を目指す人間科学の研究者としての視野を広げる。	対面
OATF602	神経科学先端セミナー2	1	1.0	2	通年	応談		高橋 阿貴, 國松 淳, 山田 洋	神経科学先端セミナー1の単位取得者のみ受講可能。遺伝子、分子、細胞、組織、生理、システム、数理、行動、認知、応用、支援など、ニューロサイエンスの各領域の先端的研究について、担当教員が毎回ゲストとして招く研究者によるセミナー講演を通して学ぶ。最新の研究手法や理論についての知識を深めるとともに、講師とのインフォーマルディスカッションを通して、ニューロサイエンスの醍醐味、面白さを学ぶ。	対面

OATF651	実践的神経科学インターンシップ	3	3.0	1・2	通年	応談	山中 克夫, 山田一夫, 武田 裕司	神経科学の実践的研究の現場を体験することにより、前期課程修了後のキャリア形成に役立てる。原則として、企業、研究所、支援現場での実習とする。 1) 産業技術総合研究所:技術研修制度、食品総合研究所:インターン制度、NTTコミュニケーション科学研究所:インターンシッププログラム、情報通信研究機構:研修員制度 等 2) 附属特別支援学校、近隣の病院、リハビリテーション、高齢者介護施設 等	その他の実施形態 インターンシップ先による
OATF801	修士論文研究指導1	3	2.0	1	春学期	随時	綾部 早穂, 高橋阿貴, 武井 陽介, 太田 深秀, 阿部高志, 本城 咲季子, 新井 哲明, 山田 一夫, 山中 克夫, 岡崎 慎治, Lazarus Michael, 高島 一郎, 坂口 昌徳, 松本 正幸, 増田 知之, 岩木 直, 武田 裕司, 山田 洋, 櫻井 武, 三丞 亜美, 平野 有沙, 大石 陽, 櫻井 勝康, 佐々木 哲也, 小金澤 禎史, バスクアロット アキッレ, 國松 淳	神経科学、行動科学、実験心理学、障害科学、精神医学を専門とする主研究指導教員の指導のもと、分子・細胞神経科学、システム神経科学、行動・認知神経科学、障害・臨床・支援神経科学のいずれかの領域に関する修士論文研究のテーマを決定し、関連する基礎的な先行研究についての文献を検索、学習し、必要に応じて予備実験・研究を実施する。	必修 対面
OATF802	修士論文研究指導2	3	2.0	1	秋学期	随時	綾部 早穂, 高橋阿貴, 武井 陽介, 太田 深秀, 阿部高志, 本城 咲季子, 新井 哲明, 山田 一夫, 山中 克夫, 岡崎 慎治, Lazarus Michael, 高島 一郎, 坂口 昌徳, 松本 正幸, 増田 知之, 岩木 直, 武田 裕司, 山田 洋, 櫻井 武, 三丞 亜美, 平野 有沙, 大石 陽, 佐々木 哲也, 櫻井 勝康, 小金澤 禎史, バスクアロット アキッレ, 國松 淳	神経科学、行動科学、実験心理学、障害科学、精神医学を専門とする主研究指導教員の指導のもと、分子・細胞神経科学、システム神経科学、行動・認知神経科学、障害・臨床・支援神経科学のいずれかの領域に関する修士論文研究を進める。合わせて、2年次4月の修士論文研究資格試験に向けての準備を行う。単位認定には、修士論文研究構想発表会での発表が必須条件とする。	必修 対面
OATF803	修士論文研究指導3	3	2.0	2	春学期	随時	綾部 早穂, 高橋阿貴, 武井 陽介, 太田 深秀, 阿部高志, 本城 咲季子, 新井 哲明, 山田 一夫, 山中 克夫, 岡崎 慎治, Lazarus Michael, 高島 一郎, 坂口 昌徳, 松本 正幸, 増田 知之, 岩木 直, 武田 裕司, 山田 洋, 櫻井 武, 三丞 亜美, 平野 有沙, 大石 陽, 櫻井 勝康, 佐々木 哲也, 小金澤 禎史, バスクアロット アキッレ, 國松 淳	神経科学、行動科学、実験心理学、障害科学、精神医学を専門とする主研究指導教員の指導のもと、分子・細胞神経科学、システム神経科学、行動・認知神経科学、障害・臨床・支援神経科学のいずれかの領域に関する修士論文研究を進める。単位認定には、修士論文研究資格試験合格が必須条件とする。	必修 対面

OATF804	修士論文研究指導4	3	2.0	2	秋学期	随時	<p>綾部 早穂, 高橋阿貴, 武井 陽介, 太田 深秀, 阿部高志, 本城 咲季子, 新井 哲明, 山田 一夫, 山中 克夫, 岡崎 慎治, Lazarus Michael, 高島 一郎, 坂口 昌徳, 松本 正幸, 増田 知之, 岩木 直, 武田裕司, 山田 洋, 櫻井 武, 三益 亜美, 平野 有沙, 大石陽, 佐々木 哲也, 櫻井 勝康, 小金澤禎史, バスクアロット アキッレ, 國松 淳</p>	<p>神経科学、行動科学、実験心理学、障害科学、精神医学を専門とする主研究指導教員の指導のもと、分子・細胞神経科学、システム神経科学、行動・認知神経科学、障害・臨床・支援神経科学のいずれかの領域に関する、修士論文の作成を進める。合わせて、修士論文最終試験、修士論文最終公開発表に向けての準備を行う。</p>	必修 対面
---------	-----------	---	-----	---	-----	----	--	---	----------